

2021、12月号

ハノイ日本人学校 学校便り

こころの道

令和3年12月1日

Nhan hâu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく

ニャンハウ

かしこく

トンミン

たくましく

ホーエマイン

校長 明石清二

世界の旅

小学生の頃、日曜日の朝に家族と共に見ていたテレビ番組の一つに「兼高かおる 世界の旅」があります。「こんな国があるんだ」「こんな人たちが住んでいるんだ」と、子供心にかくわくしながら観ていた記憶があります。同じ地球上に、これほどまでに違った人々が生活していることに大きな驚きを感じると共に、「なぜ肌の色が違うんだろう」「なぜ話す言葉が違うんだろう」と不思議で仕方ありませんでした。

画面上に映し出される異文化の世界は、まるで世界各国の図鑑や絵本で見る世界と重なり合い、想像の世界が広がりました。フランダースの犬やアラビアンナイトの世界を思い描いては、空想が広がるのでした。

小学生の頃の外国旅行は、まだまだ遠い話で自分が外国に出かけることはないのだろうと思っていました。1ドル360円の時代であり、この固定したレートは国力の違いを反映したものでした。そんなことに気付いたのも、中学生や高校生になってからでしょうか。今思えば、ずいぶんとのんびりした時代でした。

兼高かおる氏の取材による移動距離は地球180周分、取材した国は150か国とのこと。数々の経験を基にした兼高かおる氏の言葉には深みがあります。

『去る者は追わず来る者は選べ』これも運命だと思って去る者は追わない。そのときに逃したからといって、もうだめなのではなくきっと次が来るはず』『心を休めたときに頭は動き出す』美しい花の種を植えても、水も光も与えなければ、育てて花を咲かせてはくれない』『地球規模の視点をもつこと、自分の足元を見つめなおすこと』平和を保つには、まずは『違う』ということを確認合い、お互いに干渉せず尊敬し合うこと』『贅沢が文化を、余裕がアイデアを育てる』など、これらの言葉は、兼高氏だからこそ書くことのできる確かな経験に裏打ちされた内容であると思いました。早く登校を再開し、子供たちには多くの経験をさせたいものです。

海外子女教育振興財団主催「海外子女文芸作品コンクール」

本校からは19名の児童生徒の作品が入賞すると共に、学校ぐるみで参加した功績に対し「学校賞」を受賞しました。コロナ禍による厳しい状況下での子供たちの活躍に大いなる敬意を表します。

本田技研工業様主催「第19回子どもアイデアコンテスト」

アイデア賞に7名が入賞すると共に、1名が立体模型を制作しプレゼンテーションを行う本選に出場します。本選に向け、「どこにでもついてきてくれて、その場に応じた会話をしてくれる箱」を制作中です。

ユニセフ 奥村 真知子氏の講演

過日、UNICEF Viet Namの奥村真知子氏の講演会を中学部、小学部第5・6学年を対象に開催しました。奥村氏は、ベトナム少数民族の貧困問題、特に子供たちの教育問題に対して熱心に活動されています。少数民族の現状を知り、彼らの抱える問題を目の当たりにした子供たちは、大きな驚きと共に、自分達のおかれている恵まれた環境に対して認識を新たにすることができました。いずれの学年の感想にも、SDGsの視点に触れた今後の取組が記載されていました。

これからの世界を切り開く、頼もしい子供たちです。